

2 いろは道 奥の院・桂大師

いろは石を辿って弘法大師ゆかりの 奥の院・そして桂大師へ

「色は匂へど散りぬるを、我が世誰ぞ常ならむ、有為の奥山今日越えて、浅き夢見し酔ひもせず、言わずとした手習歌の一つ「いろは歌」である。平仮名47文字を重複しないように、弘法大師(?)が作ったと伝わる歌である。

このいろは文字に「ん」を加えた48文字を刻んだ石碑が、修禪寺の山門から湯舟の奥の院までの54段の間に建てられている。この石碑は明治39年(1906)、弘法大師の熱烈な信者であった東京の日高屋商店・高橋為三郎さんによって寄進されたものである。建てられた当初は僧侶や信者たちの道しるべとして大変喜ばれたという。

建てられて100年以上も経っているのに、その後の道路整備や宅地化によって欠けたり失われたものがあったため、平成3年(1991)4月に全面的に補修が行われた。補修による新旧取り混ぜて48基。修禪寺の「い」から奥の院の「ん」まで順に辿って訪ねてみよう。道順に従って分かりやすく設置されているので、探しながら歩くのも面白い。また、いろは道は桂谷八十八ヶ所巡拝コースの一部にもなっているのので、併せて訪ねてみよう。

いろは石と桂谷八十八ヶ所の二つの石碑のほかに信仰の道らしく各所に石仏や石碑などがあるので、野仏などの見方の参考書を持っていくとより楽しくなる。

修善寺駅から修善寺温泉行きバスで7分、終点で下車。狭い温泉街を抜けると日枝神社の隣に修禪寺がある。



▲「い」の字の石塔(修禪寺)

まれた石塔があり、側面に大きく「い」の文字が彫られている。これが「いろは歌」の最初の「い」の字でいろは道の最初の道標である。いろは石を順にみつけて奥の院まで行こう。

奥の院は弘法大師が18才の時、修行した所で、駆籠の窟という岩洞があり、その岸壁には阿吽の瀉がある。瀉の前には弘法大師降魔殿という修行石がある。

桂大師は弘法大師が失墜沢に修行に入った時、四国から持って来たカツラの杖を地面に挿し忘れてしまい、それが成長したと伝わる大木である。現在の木は三代目で樹の高さ30m、幹回り周囲が7.2m、樹齢は1000年と言われ、県の天然記念物に指定されている。根元の祠には大師の石仏が祀られている。

桂大師へは奥の院から湯舟川沿いの林道を1.5km行った広場から川を渡りスギ林の道を登った所にある。

毎年、春の静寂・秋の静寂と題した修禪寺から奥の院までのウォーキングが催されている。特製弁当付きで参加料は1000円。

お問い合わせは

伊豆市観光協会修善寺支部

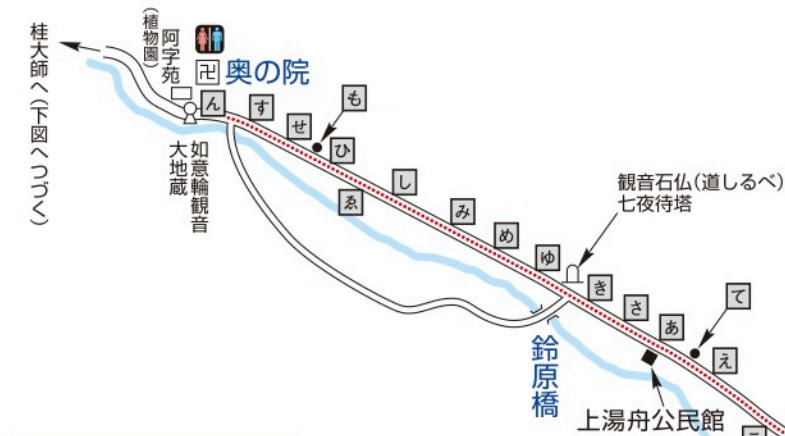
☎05558・72・2500



▲いろは石と88ヶ所碑



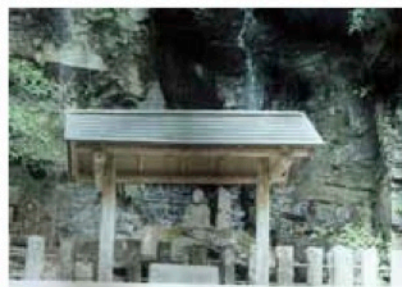
▲下湯舟公会堂の石造物



コースタイム(参考)

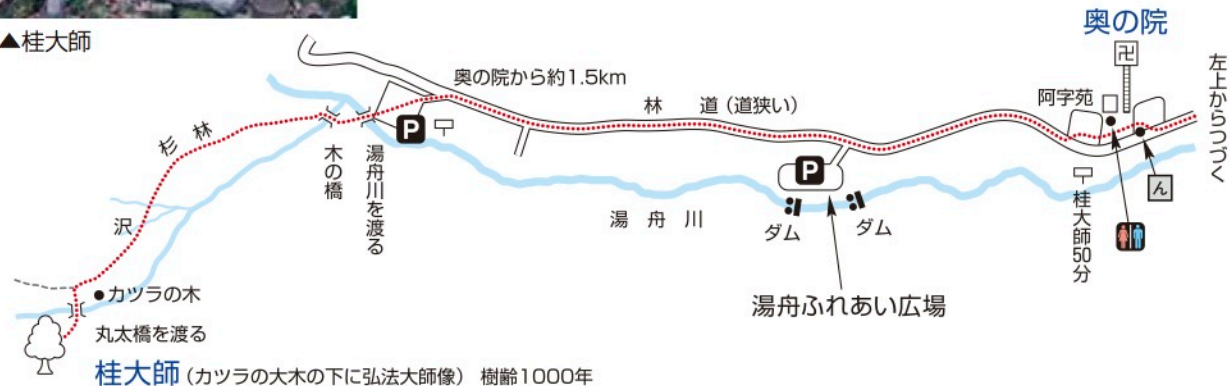
桂大師	60分	奥の院	20分	鈴原橋	25分	水池橋	20分	下湯舟公会堂	25分	輪田橋	15分	修禪寺	5分	修善寺温泉駅	7分
桂大師	50分	奥の院	15分	鈴原橋	20分	水池橋	15分	下湯舟公会堂	20分	輪田橋	15分	修禪寺	5分	修善寺温泉駅	7分

●所要時間：約2時間50分(往路)／約2時間20分(復路)



▲奥の院

▲桂大師



桂大師(カツラの大木の下に弘法大師像) 樹齢1000年